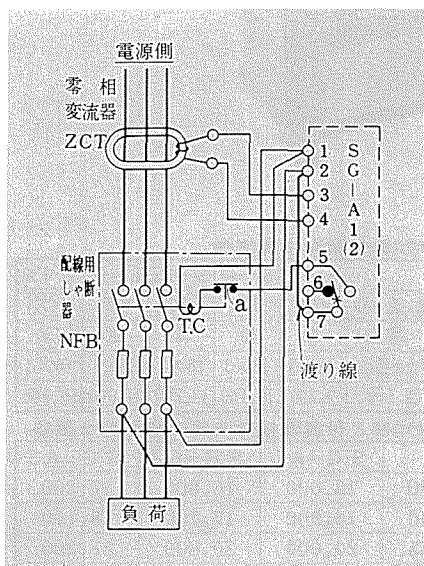


●漏電検知器使用例

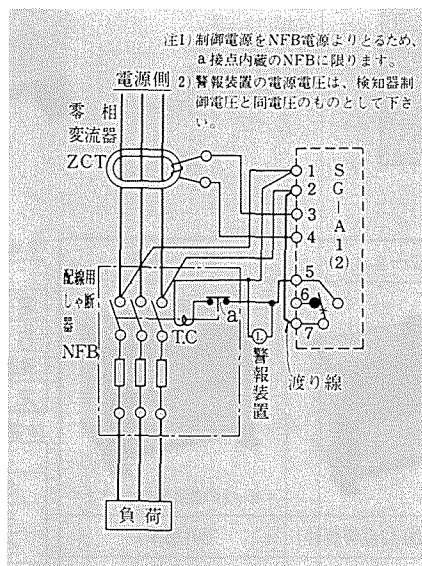
●SG-A1・SG-A2

結線図 (1)



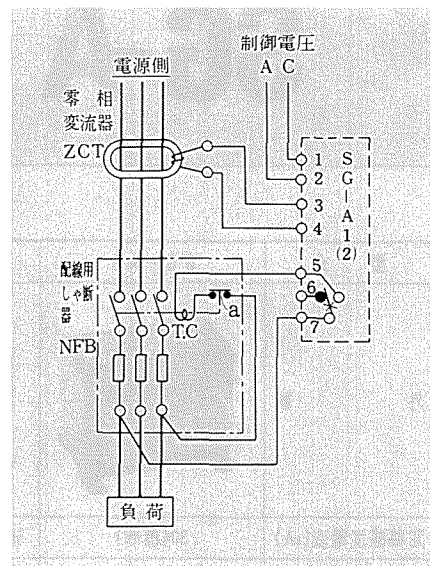
制御電圧を電路電圧より取る場合

結線図 (2)



警報装置を必要とする場合

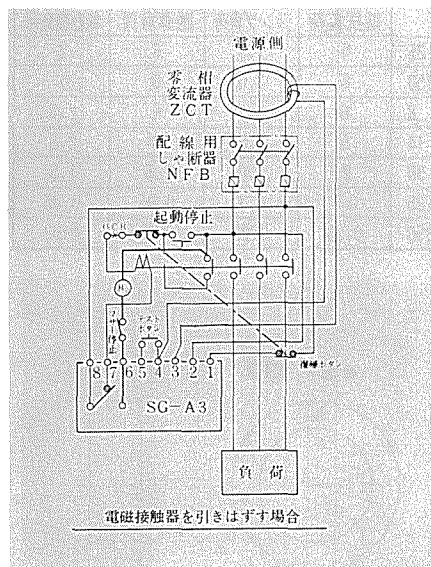
結線図 (3)



制御電圧を電路電圧より別に取りする場合

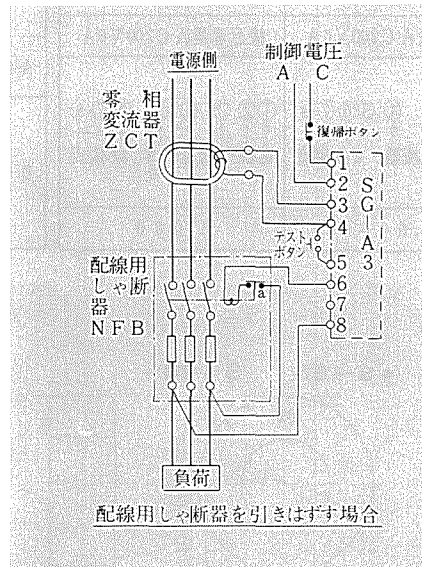
●SG-A3

結線図 (4)



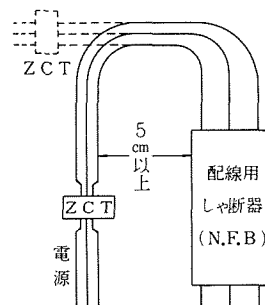
電磁接触器を引きはく場合

結線図 (5)

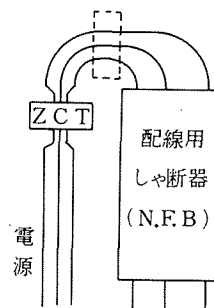


配線用しゃ断器を引きはく場合

零相変流器の取付上の注意



●良い例



●悪い例

- イ. 零相変流器はなるべく電線の直線部分に取付けてください。(上図参照)
- ロ. 零相変流器の近くで電線を曲げたい場合は、できるだけ変流器より離れて曲げてください。また大電流電線が接近していますと感度の変化や誤動作を生ずる恐れがあります。
- ハ. 接地線入りの多芯ケーブルをご使用の場合には接地線を零相変流器より負荷側で接地をしてください。
- ニ. 零相変流器はしゃ断器の電源側へ入れるようにご配慮願います。

●漏電検知器取扱い注意事項

施工上の注意

1. トリップコイル付の配線用しゃ断器と組合せてご使用の場合は制御電圧は電路電圧とは別な電源電圧を使用しても差支えはありませんが、トリップコイル (T・C) の電源は配線用しゃ断器の負荷側から取って下さい。結線図3)を参照
2. しゃ断器の開閉に連動してトリップコイル (T・C) と直列接続の接点 a を内装したしゃ断器をご使用のときは、T・C の電源は回路しゃ断器の電源側から取っても差支えありません。結線図2)を参照
3. 漏電検知器増幅部は防じん防湿構造になっていますが、動作表示器 (ターゲット) の機構部に粉塵や水滴が沢山入りますと故障が起る可能性がありますから、そのようなおそれのある場所では適当な防護箱に入れてご使用下さい。

使用上の注意

1. この漏電検知器は零相変流器を付属しておりますので、必ず検知器と同一番号のものをご使用下さい。
2. 本器は一度漏電を検知すると動作表示器 (ターゲット) をリセットする迄は制御接点 が切替わっておりますので漏電箇所修復後必ずリセットして下さい。
3. テストボタンや動作表示器はしゅん間軽く押すだけで働きますから必要以上に強くまたは長く押さないで下さい。
4. 本器は堅ろうかつ入念に製作しておりますが、万一のため使用前 (連続使用の場合は使用中時々) 必ず試験ボタンを押して確実に動作するか否かを確認してください。(労働省安全指針による。)